

説明責任の観点より

学会における 標準策定と役割り の現状

平成16年5月27日

(社)日本原子力学会 標準委員会委員長
宮野 廣
(東芝プラントシステム㈱)

2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

1

目次

1. 学協会の規格・基準など標準制定への取り組み
 - 1-1 規格・基準など標準化の意義
 - 1-2 学協会の位置づけ
2. 原子力関係 学協会の規格・基準など標準策定組織
3. 規格、標準の制定および計画
4. 規格・基準など標準策定組織の取り組み姿勢
 - 4-1 規格・基準など標準策定における機関の要件
 - 4-2 要件の実践(その1) - 公平性・公正性
 - 4-3 要件の実践(その2) - 公開性
 - 4-3-1 公衆審査でのコメント
 - 4-3-2 規格・標準の講習会
 - 4-3-3 学会講演会での規格・標準セッション
 - 4-5 ホームページ(日本原子力学会、日本機械学会、日本電気協会)
5. まとめ
 - 5-1 規格・基準など標準作成手順における 公平性、公正性、公開性
 - 5-2 規格・基準など標準の制定・認証・監査の三権分立
 - 5-3 社会での位置づけと説明責任
 - 5-4 お願ひ

2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

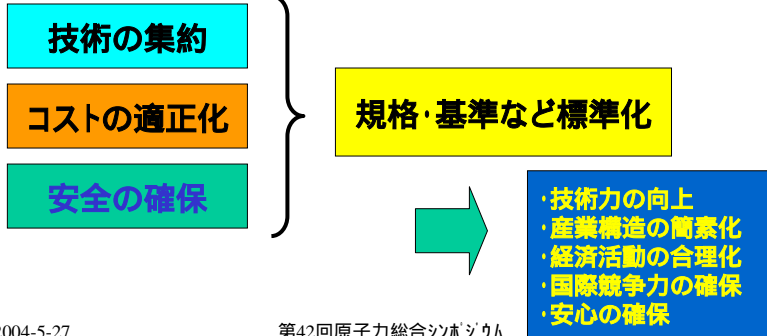
学協会の規格・基準など標準制定への取り組み

- 規格・基準など標準化の意義 -

技術の活用において、**社会の繁栄と安心**に寄与する。

「規格・基準などの標準化活動」の推進

「原子力関連学協会は、現状の規制緩和の動向、今後の国際競争・国際協力の更なる進展及び次世代技術者の育成等の観点から、学協会の専門性・中立性・公平性を活用し、我が国の原子力に関する技術標準を規格として取りまとめ、それを公に（公開）して、産業の活性化と公衆の安心に貢献する。」



2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

3

学協会の規格・基準など標準制定への取り組み

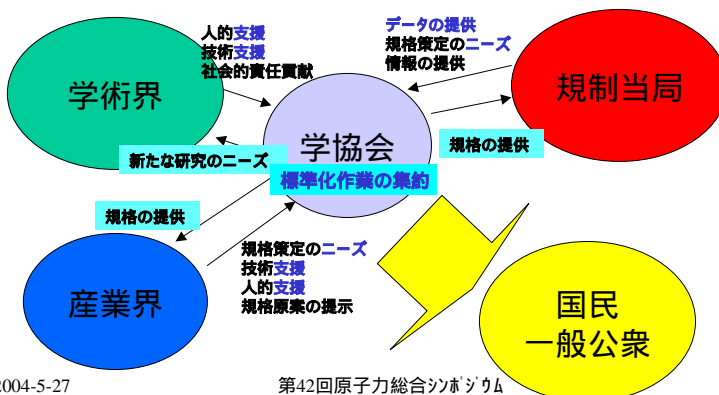
- 規格・基準など標準策定における学協会の位置づけ -

「原子力発電施設の技術基準の性能規定化と民間規格の活用に向けて」

平成14年(2003年)7月22日

原子力安全・保安部会原子力安全小委

平成9年(1997年)、電気事業法に定める技術基準の性能規定化が図られたのを機に、中立、公正な立場から電力分野の民間規格・基準を策定するために、各民間機関において規格・基準策定部門が設立された。運用のいっそうの円滑化を図るべく、「民間規格の活用に向けて」の指針が出された。



2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

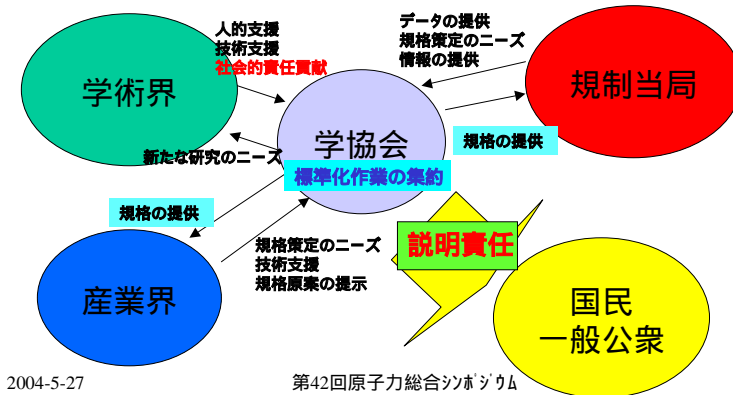
4

学協会の規格・標準など標準制定への取り組み

- 規格・基準など標準策定における学協会の位置づけ -

説明責任 Accountability

国民に対する説明の義務



原子力関係 学協会の規格・基準など標準策定組織

日本原子力学会 標準委員会

発電炉専門部会

原子燃料サイクル専門部会

研究炉専門部会

1999年9月設立

- 確率論的安全評価分科会
- BWR核熱水安定性評価分科会
- 定期安全レビュー分科会
- 臨界安全管理分科会
- 輸送容器分科会
- リサイクル燃料貯蔵分科会
- 深地層分配係数分科会
- 浅地中処分安全評価分科会
- クリアランスレベル検閲分科会
- 放射線遮蔽分科会

平成11年9月 標準委員会 設立 (原子力学会標準の策定を統括)
委員長 近藤 駿介 東京大学教授
(現委員長 宮野 廣 東芝フロンティア)

その他

- 電気学会
- 土木学会
- 原子力土木委員会
- 日本建築学会
- 日本清接協会
- 火力・原子力発電協会
ほか

日本電気協会 原子力規格専門委員会

2000年11月改組

- 安全設計分科会
- 構造分科会
- 原子燃料分科会
- 品質保証分科会
- 耐震設計分科会
- 放射線管理分科会
- 運転保守分科会

平成9年6月 日本電気技術規格委員会 (JESC) 設立
平成12年11月 原子力規格委員会 (JESCと分離)
委員長 近藤 駿介 東京大学教授
(現委員長 班目 春樹 東京大学大学院教授)

日本機械学会 標準部会 発電用設備規格委員会

原子炉専門委員会

火力専門委員会

核融合専門委員会

1997年10月設立

- 設計・建設分科会
- 材料分科会
- 清接分科会
- 維持規格分科会
- 使用済燃料貯蔵分科会
- 認証・認定分科会
- 配管破損防護設計規格分科会
- コンクリート製格納容器規格分科会
- 構造分科会
- 材料分科会
- 清接分科会

平成9年10月 発電用設備規格委員会 設立
委員長 朝田 英康 東京大学教授
(現委員長 班目 春樹 東京大学大学院教授)

規格、標準の制定および計画（日本原子力学会） *（ ）内は今年度計画中

	標準略称, 仮称	制定実績(計画)	発行 / 既販売部数
(発電炉専門部会)			
1	停止時確率論的安全評価手順	02. 2.13	02. 4.30 / 233
2	BWRの過渡沸騰遷移後の燃料健全性評価基準	03. 6. 6	03. 7.31 / 139
3	放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準	03. 6. 6	03. 9.12 / 119
4	レベル1及びレベル2 確率論的安全評価手順	(04年度下期)	-
5	BWRの核熱水力安定性評価基準	(04年度下期)	-
6	定期安全レビュー (PSR) 標準	(05年度)	-
7	地震時確率論的安全評価手順	(06年度以降)	-
8	リスク情報の活用に関するガイドライン	(06年度以降)	-
9	PSA用信頼性データベースに関する標準	(06年度以降)	-
10	燃料の補修に関する基準	(06年度以降)	-
11	原子炉腐蝕の標準	(06年度以降)	-
12	二相流解析における適用構成式の基準	(07年度以降)	-
(原子燃料サイクル専門部会)			
13	臨界安全管理の基本事項	(04年度下期)	-
14	収着分配係数の測定方法 - パッチ法の基本手順	02.10. 4	03. 9.10 / 108
15	使用済燃料等輸送容器定期点検基準	00.12.12	01. 3.16 / 464
16	使用済燃料等輸送容器の安全設計・検査基準	(04年度下期)	-
17	中間貯蔵金属キャスクの安全設計・検査基準	04. 1. 21	発行準備中
18	同 コンクリートの安全設計・検査基準	(04年度下期)	-
19	収着分配係数の測定方法 - 深地層対象基本手順	(04年度下期)	-
20	極低レベル放射性廃棄物処分安全評価手法	(05年度上期)	-
21	クリアランスレベルの検認方法	(04年度下期)	-
(研究炉専門部会)			
22	研究用原子炉の廃止措置に関する基本的考え方	03. 6. 6	03. 9.30 / 60
23	放射線遮蔽計算のための線量換算係数	(04年度上期)	-

既制定
7件

7

規格、標準の制定および計画（日本機械学会） *（ ）内は今年度計画中

原子力関係規格（原子力専門委員会担当分）

 エンドースされている規格

担当分科会	標準	発行/予定
溶接分科会	JSME S NB1-2001 溶接規格	2001/02/20
設計・建設分科会	JSME S NC1-2001 設計建設規格[軽水炉編]	2001/08/30
	[軽水炉編 + 高速炉編]	(計画中)
維持規格分科会	JSME S NA1-2000 維持規格 [評価編] (発行)	2000/05/25
	JSME S NA1-2002 [検査編 + 評価編] (発行)	2002/10/31
	[検査編 + 評価編 + 補修編]	(計画中)
使用済燃料貯蔵施設分科会	JSME S FA1-2001 金属キャスク構造規格	2001/08/20
	JSME S FB1-2003 コンクリートキャスク、キャスク結管装置 およびキャスク輸送キャスク構造規格	2004/03/30
配管破損防護設計規格分科会	JSME S ND1-2002 配管破損防護設計規格	2003/03/03
コンクリート製格納容器規格分科会	JSME S NE1-2003 コンクリート製原子炉格納容器規格	2004/02/20
材料分科会	原子力材料規格	(計画中)

既制定
8件

規格、標準の制定および計画（日本電気協会） *（ ）内は今年度計画中

原子力規格委員会では**32件制定**しているが、新規約での2000年改組後の制定分は以下である。 インド-スされている規格

分科会	制定規格	制定/予定
安全設計分科会	JEAC 4602-1992 原子炉冷却材圧力バウンダリ、原子炉格納容器バウンダリの定規規程	(審議中)
	JEAC 4605-1992 原子力発電所工学的安全施設及びその関連施設の定規規程	(審議中)
	JEAG ****-**** 計算機化された原子力発電所中央制御室のヒューマンマシンインタフェースに関する指針 (新規 仮称)	(審議中)
構造分科会	JEAC 4201-2000 原子炉構造材の監視試験方法	(審議中)
	JEAC 4202-xxxx フェライト鋼の常置試験方法	04年出版
	JEAC 4203-xxxx 原子炉格納容器の漏れ試験規程	04年出版
	JEAC 4205-2000 軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査	03年改定
	JEAC 4206-2000 2003追補版 原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認試験方法	(審議中)
	JEAG 4207-xxxx 軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験指針	04年出版
原子燃料分科会	JEAG4204-2003 発電用原子燃料品質管理指針	03年改定
品質保証分科会	JEAC4111-2003 原子力発電所における安全のための品質保証規程	03年改定
	JEAC4121-xxxx 原子力発電所における安全のための品質保証指針(運転段階)(新規・仮称)	(審議中)
耐震設計分科会	JEAG 4601-1987 1991追補版 原子力発電所耐震設計技術指針	(作業中)
	JEAG 4601・補-1984 原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力論	(作業中)
	JEAG 4616-2003 乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針 (新規)	03年制定
	JEAG***** 鋼製コンクリート構造耐震設計技術指針 (新規)	(審議中)
放射線管理分科会	JEAG 4606-2003 原子力発電所放射線モニタリング指針	03年改定
	JEAG 4610-2003 原子力発電所個人線量モニタリング	03年改定
運転・保守分科会	JEAG 4615-2003 原子力発電所の放射線遠へい設計指針 (新規)	03年制定
	JEAC4209-2003 原子力発電所の保守管理規程	03年改定
	JEAG4802-2002 原子力発電所運転員の教育訓練指針	02年制定

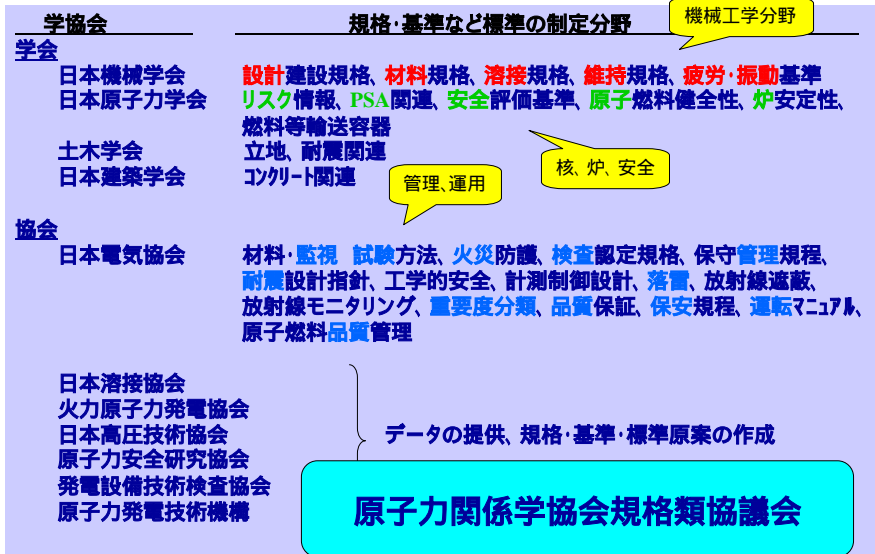
既制定
9件

規格、標準の制定および計画

学協会	制定件数	今年度計画	引用(インド-ス)
日本原子力学会	6件	8件	-
日本機械学会	8件	3件	3件
日本電気協会	9件	11件	10件(既発行分を含め)
合計	23件	22件	13件

学協会	今後 計画中の件数
日本原子力学会	9件
日本機械学会	4件
日本電気協会	18件
合計	31件

学協会の制定した規格・基準など標準の分野



2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

規格・基準など標準策定組織の取り組み姿勢

(日本原子力学会)

標準委員会は、原子力施設の安全性・信頼性を高い水準の技術に基づき効果的かつ効率的に確保する観点から、原子力施設の設計・建設・運転・廃止に関する規格・指針・手引き等(標準という)を最新の技術的知見を踏まえて制定・改定する

(日本機械学会)

発電用設備規格委員会は、社会の公益に貢献するため、最新、最先端の技術に工学的な判断を加えて産業界に必要な規格を自主的に制定整備し、発電用設備の信頼性向上に役立てて行くことを目的とする。これを踏まえ、機械関係設備の構造・機能の健全性にかかわる材料の選定、設計、製造、建設、試験・検査、維持・保守および廃止までの一連の技術活動を全体にとらえ、バランスの取れた、合理的規格の制定を目指すものである。技術的に思想が一貫した規格としなければならない。

(日本電気協会)

原子力規格委員会は、原子力発電関係電気工作物の保安およびこれに関する公衆の安全に係わる規格の整備と高度化を推進する目的で発足した。原子炉及び核燃料サイクル施設の安全性・信頼性を高い水準の技術に基づき、効果的かつ効率的に確保する観点から、原子力施設の設計・建設・運転・保守・廃止に関する規格を常に最新の知見を踏まえて制定・改定することを目的とする。

2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

規格・基準など標準作成における機関の要件

- **公平性（中立性）**：特定の個人・企業・業界の利益に偏らない
- **公正性**：標準内容に関する**広範囲**の知見・意見の収集・検討をふまえたもの
- **公開性（透明性）**：**明確かつ公開**された審議・制定過程に基づくもの
- **専門性**：**専門家の結集**による高い技術水準の維持
- **迅速性**：**新技術を迅速かつ弾力的**に取り込んでいるもの
- **合理性**：**安全確保を前提**とした合理的設計・運用を可能にするもの
- **発展性**：**民間の技術力向上へのインセンティブ**を与えるもの
- **国際性**：**海外の標準との調整**を通し、**海外でも引用され統一規格化**に資するものであると同時に**非関税障壁**とならないもの
- **適用性**：**基本的考え方は、全ての技術分野に適用**されるもの
原子力施設全般及び評価や教育訓練などを含む全般を対象とし、**全ライフサイクルに適用可能なもの**
- **体系化**：**安全原則・指針、規格・基準、解説・手引き**など階層構造を有するもの

2004-5-27

第42回原子力総合シナポジウム

13

規格・基準など標準作成における機関の要件

公平性、公正性、公開性

課題：

公平性を保つには

構成する委員の自由な発言、対応が必要です。
規格・標準の策定委員への支援

公正性を保つには

参加を自由に、広い分野の委員で構成することが必要です。
標準の技術的根拠は十分に議論
更に広い分野、一般からの策定への参画

公開性を保つには

十二分な公開、全てを完全に公開することが必要です。
両方向の対話(コミュニケーション)

2004-5-27

第42回原子力総合シナポジウム

14

“要件”の実践(その1) - 公平性・公正性(1/3)

公平性

・委員会の委員が業種上偏らないこと

原子力学会・標準委員会：6業種で各業種5名以内、合計30名以内、任期2年(再任2回)

下部機関 専門部会：6業種で各業種1/3以内、合計25名以内

機械学会・規格委員会：最低5業種で同一業種1/3以下、合計25名以内、任期2年(再任4回)

下部機関 専門委員会：6業種で各業種1/3以内、合計25名以内

電気協会・規格委員会：5業種以上、同一業種1/3を超えない、合計25名を超えない、[任期同上]

下部機関 分科会：5業種以上、各業種過半数を超えないこと)

6業種(原子力学会)：

学識経験者
 学術研究機関
 製造業
 エンジニアリング会社等
 電力事業等
 関係官庁、非営利団体、保険業、その他

10業種(機械学会、電気協会)：

電気機械器具製造業 電力事業
 建設業 鉄鋼・非鉄金属製造業
 学術研究機関 保険業
 関係官庁 学識経験者
 非営利団体 その他

・委員会の開催や議事録を公開し委員以外の参加を認める

常時参加者、オブザーバの参加・・・承認

常時参加者は常時出席、常時参加者、オブザーバは発言可能、議決権無し

発言希望者 原則 発言希望の事前申請

いつでも参加できる傍聴者

公開性

“要件”の実践(その1) - 公平性・公正性(1/3)

公平性

日本原子力学会・標準委員会委員

学識経験者 5名 部会長は別途
 学術研究機関 3名 加える(3名)
 製造業 3名
 エン지니어リング会社 5名
 電力事業 4名
 関係官庁ほか 3名
合計26名
各5名以内

日本機械学会・発電用設備規格委員会委員

電気機械器具製造業 5名 電力事業 6名
 建設業 0 鉄鋼・非鉄金属製造業 2名
 学術研究機関 2名 保険業 1名
 関係官庁 1名 学識経験者 6名
 非営利団体 3名 その他 0
8業種で各8名以内 専門委員会長2名 **合計29名**

日本電気協会・原子力規格委員会委員

電気機械器具製造業 4名 電力事業 5名
 建設業 1名 鉄鋼・非鉄金属製造業 1名
 学術研究機関 2名 保険業 1名
 関係官庁 3名 学識経験者 3名
 非営利団体 2名 その他 0

9業種 各8名以内 分科会長7名 **合計34名**

“要件”の実践(その1) - 公平性・公正性(1/3)

公平性

・委員会の委員が業種上偏らないこと

原子力学会・標準委員会：6業種で各業種5名以内、合計30名以内、任期2年(再任4回)

下部機関 専門部会：6業種で各業種1/3以内、合計25名以内

機械学会・規格委員会：最低5業種で同一業種1/3以下、合計25名以上、任期2年(再任4回)

下部機関 専門委員会：6業種で各業種1/3以内、合計25名以内

電気協会・規格委員会：5業種以上、同一業種1/3を超えない、合計25名を超えない、[任期同上]

下部機関 分科会：5業種以上、各業種過半数を超えないこと)

6業種(原子力学会)：

学識経験者
 学術研究機関
 製造業
 エンジニアリング会社等
 電力事業等
 関係官庁、非営利団体、保険業、その他

10業種(機械学会、電気協会)：

電気機械器具製造業 電力事業
 建設業 鉄鋼・非鉄金属製造業
 学術研究機関 保険業
 関係官庁 学識経験者
 非営利団体 その他

・委員会の開催や議事録を公開し委員以外の参加を認める

常時参加者、オブザーバの参加・・・承認

常時参加者は常時出席、常時参加者、オブザーバは発言可能、議決権無し

発言希望者 原則自由であるが、発言希望の事前申請

いつでも参加できる傍聴者

公開性

“要件”の実践(その1) - 公平性・公正性(2/3)

公正性

原子力学会 標準委員会の標準策定作業における参加者

- (1)標準委員会委員 委員ほか：26名、ほか常時参加者
 (2)策定作業関係者(部会、タスク、分科会、作業会ほか) 472名

公開性

コメント1

コメント1：参加者は、原子力関係者が主体である。

放射線遮蔽分科会に大学医学部保健学科の先生がネットで知ったと言うことで傍聴参加した。医療分野に所属しており、この観点から興味があったとのこと。

機械学会 発電用設備規格委員会の規格策定作業における参加者

- (1)発電用設備規格委員会委員 委員ほか：29名、ほか常時参加者
 (2)策定作業関係者(専門委員会、分科会、作業会など) 395名(原子力関係では約270名)

コメント2

コメント2：参加者は、原子力・火力発電および関係者が主体である。

マスコミ関係者が傍聴したことがある。

電気協会 原子力規格委員会の規格策定作業における参加者

- (1)原子力規格委員会委員 委員ほか：34名、常時参加者
 (2)策定作業関係者(分科会、作業会など) 680名

コメント3：参加者は、原子力発電関係者が主体である。

マスコミと研究セミナーの一般会社の方が傍聴した。

合計(延べ)
 1600名
 以上全てが、
 ボランティア
 で参加

“要件”の実践（その1） - 公平性・公正性（3/3）

公正性

- ・ **規格、標準原案の採決方法を規定**

原案作成機関（分科会、作業会など）挙手：出席委員の3/4の賛成
（委員総数の2/3出席で成立）

技術専門の分科会、部会や専門委員会、政策を司る規格・標準委員会
書面投票：投票総数の2/3の賛成
（委員総数の4/5投票で成立）

（但し、意見付き反対票がある場合、全てに説明対応をして
コメント者の納得の上で、可決とする）

議論を徹底する

“要件”の実践（その2） - 公開性

公開性

- ・ **規格・標準制定プロセスをホームページで公開**

委員会構成，委員名簿，運営規約，活動の状況，委員会議事録，会議予定 等

- ・ **規格・標準原案の公衆審査を一定期間（2ヶ月間）行うこと**

標準の制定，改定，廃止の決議後，2ヶ月間一般公衆の意見を聴取
一般公衆からの意見に対し，審議結果を公表

- ・ 記録を一定期間 保存。 **資料はいつでも、誰でも閲覧可能**

- ・ **講習会による徹底、学会 講演会などでの討論・意見交換**

“要件”の実践(2) - 公開性 公衆審査でのコメント(日本原子力学会)

標準略称, 仮称		制定実績(計画)	発行 / 既販売部数
日本原子力学会規格 標準の公開へのコメント数、コメント人数			
	標準略称	コメント人数	コメント数
1	停止時確率論的安全評価手順	0	0
2	BWRの過渡沸騰遷移後の燃料健全性評価基準	1	4
3	放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準	0	0
4	収着分配係数の測定方法 - パッチ法の基本手順	2	18
5	燃料等輸送容器定期点検基準	0	0
6	使用済燃料等輸送容器の安全設計・検査基準	0	0
7	中間貯蔵金属カスクの安全設計・検査基準	0	0
8	中間貯蔵金属カスクの安全設計・検査基準〔改定版〕	1	1
9	研究用原子炉の廃止措置に関する基本的考え方	1	2
10	放射線遮蔽計算のための線量換算係数	1	9
	計	6	34
20	極低レベル放射性廃棄物処分安全評価手法	(05年度上期)	-
21	クリアランスレベルの検認方法	(04年度下期)	-
(研究炉専門部会)			
22	研究用原子炉の廃止措置に関する基本的考え方	03. 6. 6	03. 9.30 / 60
23	放射線遮蔽計算のための線量換算係数	(04年度上期)	

21

“要件”の実践(その2) - 公開性 公衆審査でのコメント(日本機械学会)

日本機械学会 発電用設備規格 原子力関係規格 の公開へのコメント数、コメント人数			予定
標準略称	コメント人数	コメント件数	
1 溶接規格 (2001/02/20発行)	0	0	2/20
3 設計建設規格[軽水炉編] (2001/08/30発行)	0	0	8/30
4 維持規格[評価編] (2000/05/25発行) 【検査編・評価編】(2002/10/31発行)	0 1	0 27	中) 5/25 0/31
5 金属カスク構造規格 (2001/08/20発行) コンクリートカスク構造規格 (2004/03/30発行)	0 0	0 0	中)
7 配管破損防護設計規格 (2003/03/03)	1	5	8/20
8 コンクリート製原子炉格納容器規格 (2004/02/20)	0	0	3/30
計	2	32	3/03
配管破損防護設計規格分科会	JSME S NE1-2003 コンクリート製原子炉格納容器規格		2004/02/20
コンクリート製格納容器規格分科会	原子力材料規格		(計画中)
材料分科会			

“要件”の実践(その2) - 公開性 公衆審査でのコメント(日本電気協会)

規格名称			意見人数	意見件数
JEAG4802-2002	改訂版	原子力発電所運転員の教育・訓練指針	3	7
JEAG4204-2003	改定版	発電用原子燃料品質管理指針	2	3
JEAG4606-2003	改定版	原子力発電所 放射線モニタリング指針	2	15
JEAG4610-2003	改定版	原子力発電所 個人線量モニタリング指針	2	2
JEAG4615-2003	制定版	原子力発電所 放射線遮へい設計指針	4	13
JEAC4206-2003	追加版	原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認試験方法 (原子炉圧力容器に対する運転期間中の非延性破壊防止 の評価方法)	1	4
JEAG4616-2003	制定版	乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針	1	4
JEAC4209-2003	改定版	原子力発電所の保守管理規程	2	52
JEAC4111-2003	制定版	原子力発電所における安全のための品質保証規程	3	4
JEAG4121	制定案	原子力発電所における安全のための品質保障指針(運転 段階)(仮称)	1	1
JEAC4202	改定案	フェライト鋼の落重試験方法	1	1
JEAG4207	改定案	軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超 音波探傷試験指針	2	14
JEAC4203-2004	改定版	原子炉格納容器の漏えい率試験規程	2	13
合計			26	133

“要件”の実践(その2) - 公開性

公開性

- ・ **規格・標準制定プロセスをホームページで公開**
委員会構成, 委員名簿, 運営規約, 活動の状況, 委員会議事録, 会議予定 等
- ・ **規格・標準原案の公衆審査を一定期間(2ヶ月間)行うこと**
標準の制定, 改定, 廃止の決議後, 2ヶ月間一般公衆の意見を聴取
一般公衆からの意見に対し, 審議結果を公表
- ・ 記録を一定期間 保存。 **資料はいつでも、誰でも閲覧可能**
- ・ **講習会による徹底、学会 講演会などでの討論・意見交換**

“要件”の実践(その2) - 公開性 規格・標準の講習会

日本原子力学会

標準の講習会

- 標準の内容の理解促進を図り、標準の普及を図るため講習会を実施した。
- ・年月日、時間： 2002.10.30、10:30～17:00
- ・テーマ、内容： 標準「停止確率論的安全評価手順」
- ・受講対象者： 標準の利用者（電力会社で実際に確率論的安全評価を行う人等）
- ・講師： 標準を作成した分科会委員が中心
- ・場所 / 参加人数： 原子力学会会講室 / 29名参加

公開性

日本機械学会

原子力関係規格の講習会 : 20-70名が参加

	実施講習
溶接分科会 / 溶接規格(2001/02/20発行)	1回
設計・建設分科会 / 設計建設規格[軽水炉編](2001/08/30発行)	3回
[軽水炉編 + 高速炉編]	(計画中)
維持規格分科会 / 維持規格[評価編](2000/05/25発行)	3回
/ [検査編 + 評価編](2002/10/31発行) *	3回
/ [検査編 + 評価編 + 補修編]	(計画中)
使用済燃料貯蔵施設分科会 / 金属キャスク構造規格(2001/08/20発行)	2回
/ コンクリートキャスク構造規格(2004/03/30発行)	2回
配管破損防護設計規格分科会 / 配管破損防護設計規格(2003/03/03)	2回
コンクリート製格納容器規格分科会 / コンクリート製原子炉格納容器規格(2004/02/20)	2回
	計18回

* コメント: 公開により32件のコメントがあった。

日本電気協会

原子力規格の講習会

J E A C 4 1 1 1 品質保証規程の講習会を3回実施、合計579名が参加した。

2004-5-27

第42回原子力総合シナジウム

“要件”の実践(その2) - 公開性 学会講演会での規格・標準セッション

日本原子力学会 年会 / 大会での報告、議論

「標準委員会セッション」を設けて、「一般公開」で以下のものを実施。

公開性

年月日、時間 年会 / 大会	テーマ・内容	場 所 参加人数
2001.9.19 10:15～12:15 2001年秋の大会	1招待講演 「原子力規制における学協会への期待」(経済産業省 原子力安全・保安院) パネルディスカッション 「民間規格制定に向けた使命と課題」(保安院, 日本機械学会, 日本電気協会, 日本原子力学会 の標準活動についての意見を代表できる人)	北海道大学 大講堂 約200名
2003.3.28 10:00～12:00 2003年春の年会	作成した 標準の紹介等 「BWRにおける過渡的な沸騰遷移後の燃料健全性評価の標準化」 (作成に当たった分科会の委員が中心に実施)	アルファ世保100 人会場 約70名
2004.3.30 9:00～12:00 2004年春の年会	作成途上の標準に関する 意見の収集等 (1) 放射性廃棄物の区分と処分方法を中心とした用語・呼称に関するトピカル・レポートの検討状況 (2) クリアランスレベル検認方法の標準化への検討状況 (作成に当たっている分科会の委員が中心に実施)	岡山大学 123人会場 約60名以上

双方向コミュニケーション

2004-5-27

第42回原子力総合シナジウム

“要件”の実践(その2) - 公開性

公開性

- ・ **規格・標準制定プロセスをホームページで公開**
委員会構成, 委員名簿, 運営規約, 活動の状況, 委員会議事録, 会議予定 等
- ・ **規格・標準原案の公衆審査を一定期間(2ヶ月間)行うこと**
標準の制定, 改定, 廃止の決議後, 2ヶ月間一般公衆の意見を聴取
一般公衆からの意見に対し, 審議結果を公表
- ・ 記録を一定期間 保存。 **資料はいつでも、誰でも閲覧可能**
- ・ **講習会による徹底、学会 講演会などでの討論・意見交換**

2004-5-27

第42回原子力総合シナポジウム

27

日本原子力学会

標準委員会ホームページ

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/aesj/sc/>

標準委員会
Home Page

標準委員会のホームページへようこそ！
左のメニューの項目をクリックいただけます

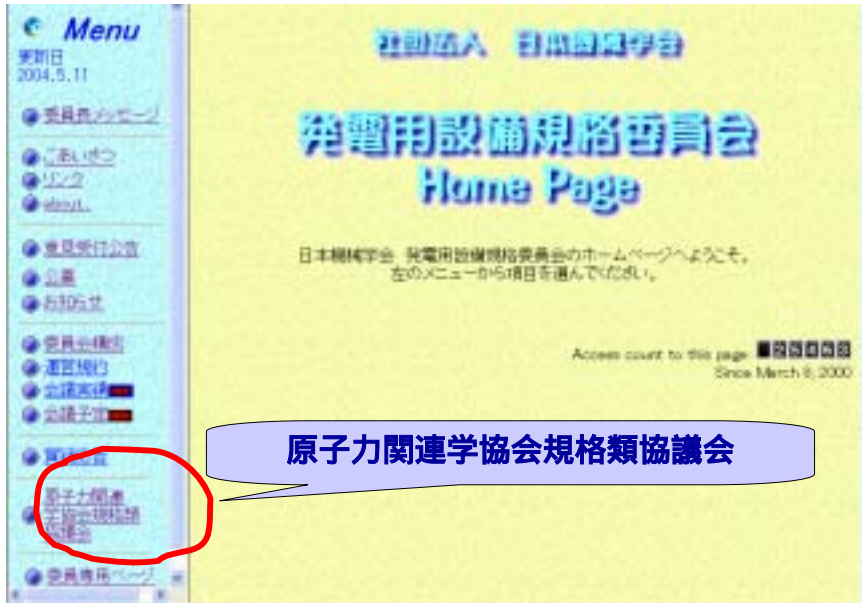
お問い合わせやご意見は、cs@wwwsoc.jp までお願いします
標準委員会事務局

設立日 2000年 人員数 10名

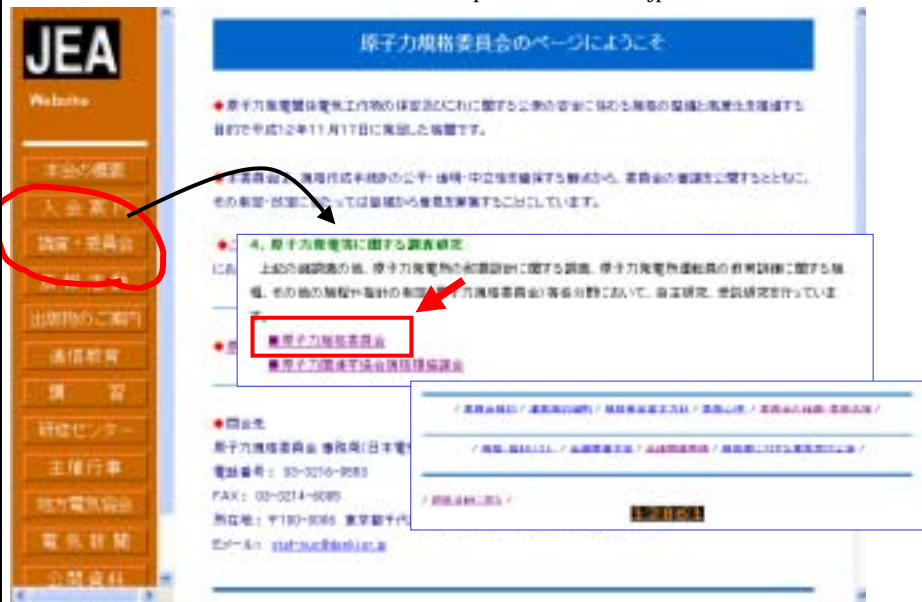
原子力関連学協会規格類協議会

28

日本機械学会 発電用設備規格委員会ホームページ
http://www.jsme.or.jp/std/pgc



日本電気協会 原子力規格委員会ホームページ
http://www.denki.or.jp/tech/index.htm



“要件”の実践(その2) - 公開性 ホームページによる情報の公開

公開性

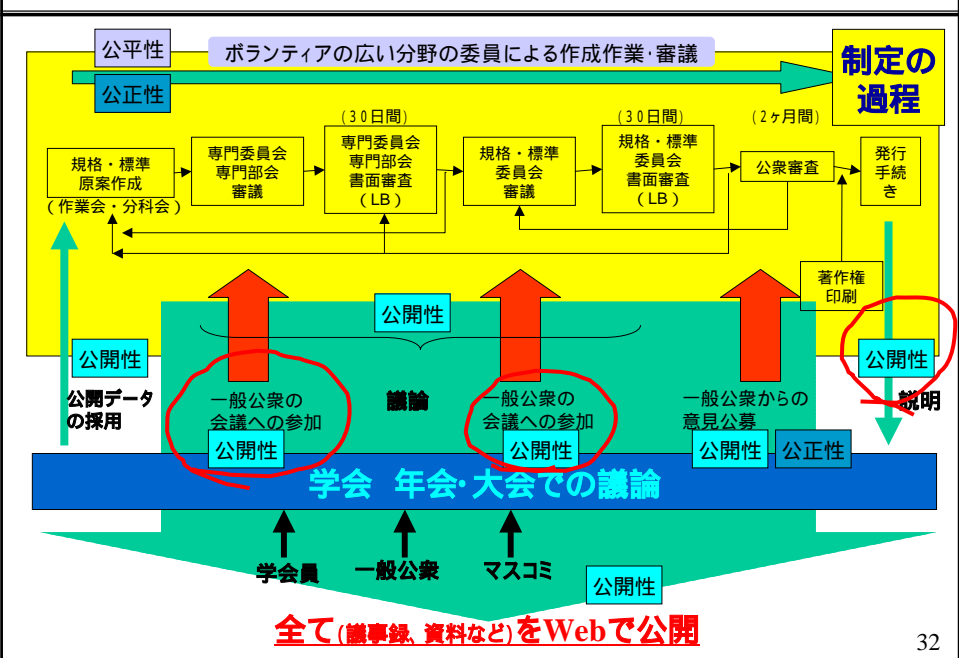
ホームページへのアクセス数

各委員会WEBサイト	開設日	現在累計(04年4月末)
日本原子力学会 標準委員会	00.4.18	22,405 回
日本機械学会発電用設備規格委員会	00.3.8	25,343 回
日本電気協会 原子力規格委員会	00.10.5	12,648 回

2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

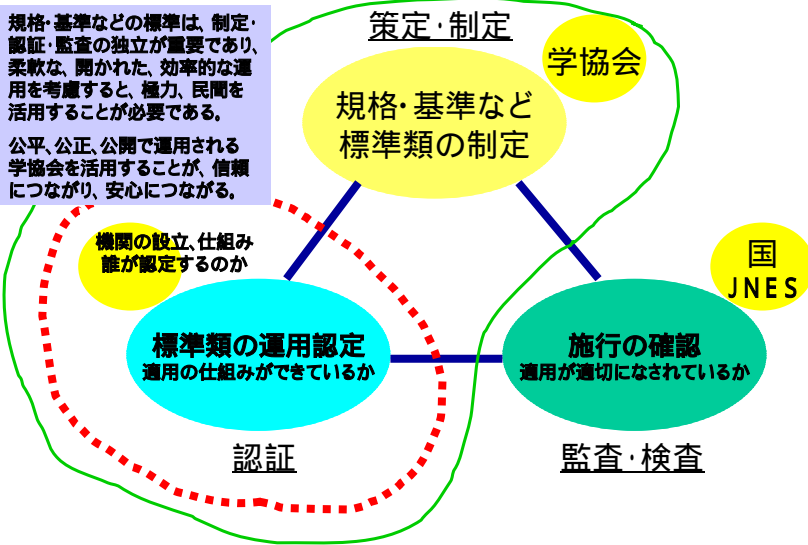
まとめ 規格・基準など標準作成手順における公平性・公正性・公開性



まとめ

規格・基準など標準の制定・運用認証・監査・検査の三権分立

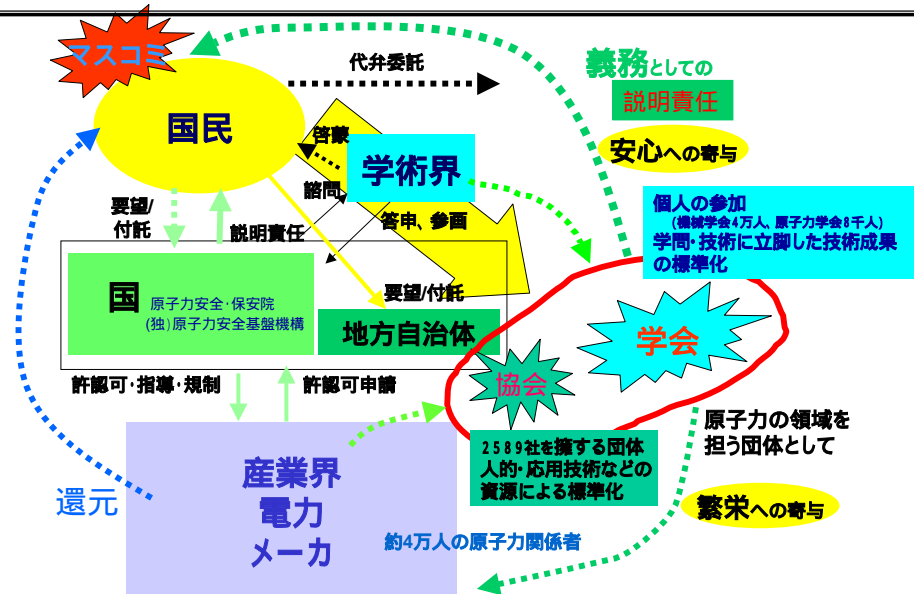
規格・基準などの標準は、制定・認証・監査の独立が重要であり、柔軟な、開かれた、効率的な運用を考慮すると、極力、民間を活用することが必要である。公平、公正、公開で運用される学協会を活用することが、信頼につながり、安心につながる。



2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

まとめ 社会での位置づけと説明責任



2004-5-27

第42回原子力総合シンポジウム

まとめ お願い

- ・学協会を構成するメンバーは 説明責任 (Accountability) を持つ。すなわち、公衆・国民への義務である。
- ・安心 を確保するには、公平、公正、公開 をさらに厳しく、厳正に進める。
- ・原子力関連の規制においては民間への徹底した移管を進め、民間基準の活用により、公平性、公正性、公開性を確保する。

学協会での規格・基準など標準作りへの更なるご理解とご支援を